

谷のお面さんまつり&雪像まつり

2月17日(日)に北谷町谷区で開催された「お面さんまつり」に併せて、15日から3日間、勝山市青年団体連絡会と谷はやし込み保存会が協働で、子どもたちに冬の山村を感じてもらおうイベントを昨年続いて開催しました。

15日(金)は、南保育園と松文保育園の園児30人が伊良神社の境内で1つずつ雪だるまを作り、その後、谷教会で囲炉裏を囲んでおやつとぜんざいを食べました。

16日(土)は、一般公募したボランティア20人が雪像を作り、前日に作った園児の雪だるまと合わせて、予定よりも多い260体が完成しました。これらは、伊良神社から谷教会までの道沿いに設置され、お客さまを迎えました。

17日(日)は、集落内のマイカー乗り入れを少なくするために、お客さまをバスで送迎しました。

谷集会所でのお面さんをお参りしたあと、谷教会で「山の幸」(春の山菜や秋に収穫した木の実など)や「おぼの味」(鯖の熟れ鯖しや大根の煮



雪像の顔作り



谷教会の様子

しめなどの家庭料理)を振る舞いました。囲炉裏を囲んでクルミやカチ栗、ガヤを炒って食べたり、国際交流員マークさんによるチエロ演奏を聴いたりしました。また当日の夜には、かつやま子どもの村小中学校の生徒が雪像のろうそくに火を灯しに来てくれました。

区長の田中久明三さんは、「過疎の村に子どもや若者がたくさん来てくれたことがとても嬉しかった。」と語っていました。

このイベントを通じて、子どもたちに伝統行事やその土地での暮らしぶりを知ってもらい、冬の山村もなかなかおもしろいと思ってもらえたら嬉しいですね。

文章 エコ協広報委員 小玉理恵

●平成24年度

わがまち魅力醸成事業報告会

エコ協に参加する20の団体が、今年度を実施した事業成果を発表します。(観覧自由)

と き▼3月24日(日) 午後0時30分

ところ▼すこやか 多目的ホール

問 未来創造課(市役所2階)

☎88・1115

歴史の散歩道 (148)

勝山三町芸 その2

明和三年(一七六六)、伊勢松様(六代長教)が三町芸を見物される各宿となった大庄屋とは、郡町上は神明下の茶屋弥次兵衛、郡町下は追手坂下の安田十兵衛、袋田は毘沙門前の室屋津兵衛、寺町上は尊光寺前の亀甲屋小右エ門、寺町下は澤敬寺前槽番所の酒屋加兵衛等の宅であった。

明和六年の左義長芸山は、伊勢松様とお部屋様が一緒にご覧になるということで庶民も大喜びし、盛大に行われた。この芸のためにと、殿様から各宿に金二百疋(当時一疋は二十文)、本陣の安田宅には三百疋、町内の若者には褒美が与えられた。

古文書の中に「殿様開善寺御佛参りに付き通行困難であり太鼓槽を一方に片寄せて建てよ」とのお触れが出たと書かれているが、なぜ左義長の日に本町を通って寺参りしたのかは不明である。その後、いつまで続けられたのかは定かではなく、当時の記録も残されていない。

明治に入り、殿様の三町芸の見物は廃止となり、明治十六年(一八八三)には本格的な鎮火祭太鼓槽が各地で建立され、路上太鼓槽建設願いととも、三町芸が放棄手踊り興行として大野警察署勝山分署に提出された。ちなみに、その他の提出書類には左義長の文字は見られず全て鎮火祭執行と書いてあり、左義長に鎮火祭を合祀した表れであろう。



下後区の三町芸

文化財保護委員 丸屋仁志

おすすめ図書



勝山市立図書館 ☎88-6000 ホームページ <http://tosyokan.city.katsuyama.fukui.jp/>

一般図書



「悪口のすゝめ」

村松 友視/著 日本経済新聞出版社

女は度胸、男は愛嬌。実は悪口こそ、愛の証! ユーモアと諧謔とエスプリ、恥じらいとはにかみと自分遊び…。腹藏なき悪口で鬱の時代に風穴をあける、昭和なテイストのエッセイ。

中高生図書



「やらなきやゼロ!」 ~財政破綻した夕張を元気にする全国最年少市長の挑戦~

鈴木 直道/著 岩波書店

北海道夕張市に全国最年少の市長が誕生した。ごく普通の若者が、財政破綻したまちの再生に取り組む。厳しい財政事情、全国一高い高齢化率、最低水準の行政サービス…。難問山積みのなか奮闘する、若き市長の挑戦の記録。

こども図書



「ともだちのはじまり」

最上 一平/作 ポプラ社

活発なじゅじゅと引っ込み思案のさとは、まるで違う性格。ある日、じゅじゅが消しゴムを忘れたので、さとは消しゴムを貸してあげた。すると、休み時間にじゅじゅはさとはに、ある秘密を打ちかけて…。二人が心を通わせていく過程をみずみずしく描く物語。

「勝山エコライフ」コラム



第17回 子どもたちからの発信

勝山生活も、はや2年です。最近、子どもたちが次々と「発信」を始めています。勝山の魅力を伸ばし、課題を改善する提案を大人に向かって行うのです。ほとんどの場合、様々な課題は、大人が勝山での日常生活を「当たり前」ととらえて客観視ができないことに起因していると言っても良いでしょう。それを、勝山の常識に染まっていない子どもたちが指摘することで、大人の常識の問題点を変えようとしているのです。

例えば、勝山北部中や勝山中部中は、川の清掃を通し、ゴミのほとんどが大人によって捨てられていく事実を知り、「大人にゴミを捨てさせない活動」を展開中です。小学校でも赤とんぼ、ホタル、外来種、ゴミなどの調査、バイクモヤミチノクフクジュソウの保全などが行われ、成果や提言を大人に伝えていきます。この活動は昨年の環境自治体会議で高く評価されました。会議史上初めて子どもたちが直接大人に対し、様々な提言

子どもたちからの提言、大人がきちんと受け止め行動を!

を行ったのですから。最近では、北部中が勝山の知名度向上のためにステッカーを販売中です。鹿谷小と荒土小は、高校生の高度な理数教育の大会で小学生として県内でただ2校のみ発表を行いました。さらに、昨年は鹿谷小、今年が荒土小児童が、県のコンクールで最優秀賞を受賞しました。そして、成器西小児童が、温暖化、外来種、ゴミ、エネルギー問題の解決へ向け、広報かつやまや新聞を使って自分たちの思いを伝え、さらに総理大臣らへも手紙を書いています。

こういった活動には、正解も間違いもありません。可能性を信じ、できることをやってみようと思っ

人口の動き

	1月末現在	自然動態			社会動態			2月末現在	月間増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計		
男	12,235人	8	15	-7	6	-21	-15	12,213人	-22人
女	13,407人	6	19	-13	7	-18	-11	13,383人	-24人
合計	25,642人	14	34	-20	13	-39	-26	25,596人	-46人
世帯数	8,137世帯							8,126世帯	-11世帯

3月の納税

今月の納税はありません

交通事故発生状況

※高齢者=65歳以上

件数内訳	平成25年2月末	前年比
総件数	112件	-7件
人身事故(うち高齢者)	7件(3)	-7件(-1)
死者(うち高齢者)	0人(0)	±0人(±0)
傷者	7人	-11人
物損事故	105件	±0件